

平成23年度契約工事「公共事業コスト縮減行動計画2010」の実施状況について

1 目的と背景

厳しい財政事情が続く中、公共事業を効率的かつ効果的に執行するとともに、適正な価格で良質な社会資本の整備を図ることが必要です。また、「とちぎ未来開拓プログラム」を着実に推進するため、平成22年7月に「公共事業コスト縮減行動計画2010」を策定し、全庁あげてコスト縮減に取り組んでいます。

2 「公共事業コスト縮減行動計画2010」のポイント

- (1) 期 間 平成22～26年度（5年間）
- (2) 縮減目標 次の5分野を対象に、前行動計画（2005）で達成した15%以上のコスト縮減を（平成16年度の標準的な工事方法や資材が基準）を、5年間維持していきます。
- (3) 5分野の主な内容
 - ① 工事コストの低減 ⇒ 計画・設計の見直しや新技術の採用による低減
 - ② 時間的コストの低減 ⇒ 効率的に工事を実施し整備効果の早期発現
 - ③ ライフサイクルコストの低減 ⇒ 耐久性を向上させ維持管理コストを低減
 - ④ 環境社会におけるコストの低減 ⇒ 現場発生材の再利用や環境への負荷低減
 - ⑤ 効率性向上による長期的コストの低減 ⇒ 工事関係手続きの電子化による低減

3 結果

- (1) 目標15%以上（平成16年度基準）に対し、平成23年度は、15.9%のコスト縮減を図りました。なお、この縮減率は、各執行課所で事業毎に抽出・集計した値です。

行動計画名	行動計画2010（H22～26）				
	H22	H23	H24	H25	H26
目標縮減率（%）	15.0	15.0	15.0	15.0	15.0
実施縮減率（%）	15.7	15.9			

- (2) 取組にあたり配慮した事項
 - ① 品質を確保しながら、より効率的な事業執行に努めました。
 - ② 県内経済の下支えや雇用を確保するため、計画的な工事発注と県産品の利用に努めました。
 - ③ 施工性や経済性に優れた材料や工法等の新技術活用に努めました。

4 今後の課題と対応

長年のコスト縮減の取組みにより、各担当者にコスト意識が定着していますが、「とちぎ未来開拓プログラム」を推進している中、継続して高いコスト意識を維持しながら、設計や工事執行に取り組むことが必要です。

5 主な取組事例

① 工事コストの低減

【環境森林部】 計画・設計の見直し

治山工事における谷止工の施工において、現地採取の自然石を活用することにより、景観及び自然環境に配慮するとともに工事コストを削減しました。



(矢板市 長井)

【農政部】 新技術の採用

圃場整備工事の整地工において、従来のブルドーザによる表土剥ぎ取り・戻し工法から、プラウにより天地返し、ブルドーザで押し土する工法を採用することにより、工事コストを削減しました。



(下野市 武名瀬川地区)

【県土整備部】 計画・設計の見直し

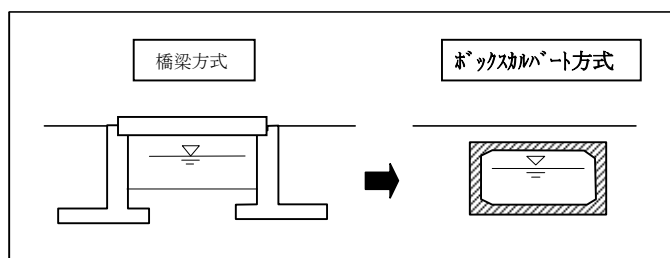
河川改修工事において、隣接する圃場整備工事と施工時期をあわせ、河川を掘削する際に発生する土砂を圃場整備工事へ流用することにより、工事コストを削減しました。



(大田原市 一級河川巻川)

【県土整備部】 計画・設計の見直し

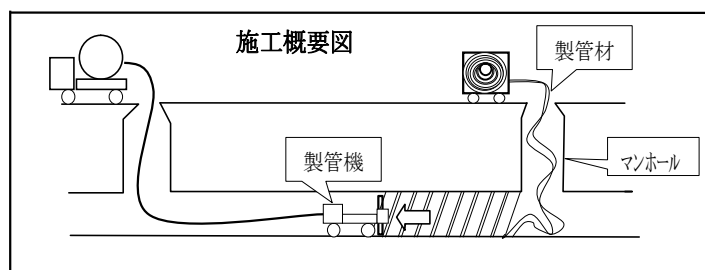
県道の改築工事において、河川幅が狭いことから渡河部の構造を橋梁方式からボックスカルバート方式を採用することにより、工事コストを縮減しました。



(那須町 主要地方道那須西郷線)

【県土整備部】 新技術の採用

下水道管の老朽化対策工事において、下水道管の布設替工法から、既設管の内側を帯状の硬質塩化ビニル材で製管し、既設管との隙間にモルタルを充填する新技術を採用することにより、工事コストを縮減しました。



(日光市・大谷川幹線)

【企業局】 計画・設計の見直し

産業団地の道路改良工事において、現場内から発生したU型側溝や路盤材を再利用することにより、工事コストを縮減しました。



(壬生町 みぶ羽生田産業団地)

② 時間的コストの低減

【県土整備部】 事業の重点化・集中化

トンネルの新設工事において、重点的な投資や施工者との連携を密に行ったことにより、トンネルの開通が短縮され、異常気象時における道路の信頼性の向上や、渋滞の緩和など事業効果の早期発現を図りました。



(那須塩原市 一般国道400号がま石トンネル)

③ ライフサイクルコストの低減

【県土整備部】 既存ストックの有効活用

老朽化した県営住宅を修繕し、耐久性を向上させることにより、利用年数を延長させ既存ストックを有効活用しました。



(宇都宮市 県営江曾島住宅)

④ 環境社会におけるコストの低減

【県土整備部】 建設副産物対策

バイパス道路の整備において、現場内で発生した軟弱な土砂を土質改良し、盛土材として再利用することにより、工事コストの縮減と資源の有効利用を図りました。



(市貝町 主要地方道宇都宮茂木線)

⑤ 効率性向上による長期的コストの低減

【3部1局】 電子入札や電子納品等の実施

インターネットを利用した電子入札や工事資料等を電子納品とすることにより、発注者と入札参加者の事務効率化や入札の際に要する移動経費を縮減し効率性を向上させました。